

法政大学サステナビリティ研究所 所蔵  
金山ゼミナール資料（むつ小川原開発調査資料）

## 資料群概要

### 1. 資料群の識別情報

項目	内容
(1) レファレンスコード	KA-S0-000-00
(2) タイトル	金山ゼミナール資料（むつ小川原開発調査資料）
(3) 年代	1971-1999
(4) 記述階層	Fonds
(5) 数量	紙資料 1063 点、テープ 456 本、ビデオ 48 本

### 2. 資料群形成の背景

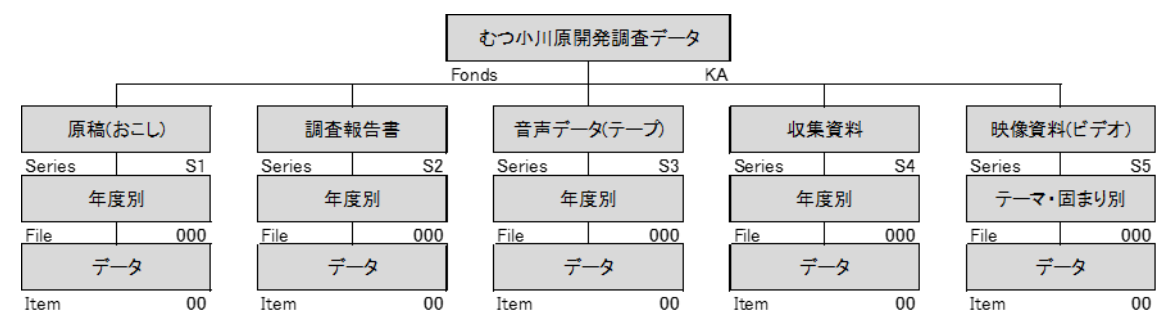
項目	内容
(1) 作成者	法政大学社会学部金山ゼミナール（1972-1999） 金山ゼミナールは、法政大学社会学部の金山行孝教授（現名誉教授）を担当教員として構成されたもので、ゼミ活動のなかで社会調査の実習がおこなわれた。本資料群は、金山ゼミナールが 1972 年から 1999 年にかけて、青森県六ヶ所村の石油備蓄コンビナート、核燃料リサイクル施設等をめぐる社会問題を対象にして、その舞台になる六ヶ所村を環境社会学の視点から、社会問題の概要、経過、現況等をはじめ、六ヶ所村の自然環境、住民の生活等まで調査したものである。
(2) データ・作成者履歴	金山教授の退職により、本資料群は同大学の舩橋晴俊教授の研究室へ移管された。その後、2014 年 1 月、サステナビリティ研究所に対して舩橋教授より本資料群の提供がなされ、研究所のアプローチ①の活動として整理とデジタル化作業を開始し、2016 年 5 月に一般公開した。
(3) データ整理履歴	年度ごとに整理が行われ、目録化されたと推測される「資料カード」が存在するが、その詳細については、本資料群内の調査報告書に記載されている断片的な情報の他には見当たらない。 2002 年に、金山ゼミナールの OB 会が法政大学社会学部の内部資料として発刊した『むつ小川原開発調査の記録—1972~1999—』がある。
(4) 出所・提供	○出所：金山行孝教授ゼミナール。なお、金山教授の退職にともない、本資料群は舩橋晴俊教授研究室へ移管。

○提供：船橋教授よりサステナビリティ研究所に対し本資料群が提供され、整理・デジタル化作業を開始。

### 3. 資料群の内容と構造

項目	内容
(1) 概要及び内容	<p>この資料群は、1972年から1999年まで、青森県六ヶ所村のむつ小川原開発調査を対象にした社会調査で収集、または作成された資料群である。資料の作成年代は、1971年から1999年までである。</p> <p>金山ゼミナールが調査したむつ小川原開発は、1968年から始まった青森県六ヶ所村付近を対象にした開発事業である。むつ小川原開発事業は、最初は石油備蓄コンビナート建設にめぐる問題が発生して、1984年に核燃料リサイクル施設建設問題、2000年に天然ガス火力発電所建設問題、2005年に液晶ディスプレイ産業誘致問題等、現在進行形で開発事業をめぐる社会問題が起きている。</p> <p>金山ゼミナールは、むつ小川原開発事業を環境社会学の視点から調査、分析しており、六ヶ所村の自然、人文環境も調査の射程範囲に入れている。</p> <p>この資料群は、形態別に原稿（テープおこし）、調査報告書、音声データ（テープ）、収集資料、映像資料（ビデオ）に分類される。</p> <p>○原稿（テープおこし）は、インタビューを文字化したものである。（1978-1997）</p> <p>○調査報告書は、学期末にゼミナールの調査発表の際に作成されたものである。（1974-1999）</p> <p>○音声データはヒアリングを録音したものである。（1974-1999）</p> <p>○収集資料は、事前調査、またはヒアリング対象者（話し手）から収集した資料である。（1971-1999）</p> <p>○映像資料（ビデオ）は、現地調査の際に六ヶ所村の自然環境、TV放送を録画したものである。（1971-2012）</p> <p>ただし、むつ小川原開発調査は1972年から行われてきたが、1972、1973年度の資料は、この資料群に含まれていない。</p> <p>資料は全般的に1974～1976年を起点に生産されているが、映像資料（ビデオ）、および収集資料の中に1971年制作の資料が含まれている。</p>

(2)	評価選別 処分等	○全量保存（価値評価、保存評価） ○一部資料は公開可
(3)	追加有無	なし
(4)	編成(整理)構造	○Fonds：作成者分類（KA） ○Series：主題別分類（S+通し番号1桁） ※S5 映像資料（ビデオ）に関しては、File 分類がテーマ別分類で、テーマ分類数字2桁、通し番号1桁である。 ○File：簿冊、資料群分類 （年度2桁+通し番号1桁） ○Item：データの件別分類（通し番号2桁）



#### 4. 資料へのアクセスと利用条件

項目	内容
(1) 公開・利用条件	資料群内の S2 調査報告書、S4 収集資料に限って公開。なお、公開はデジタル画像のみで、原資料の公開はしない。
(2) 複製可否	複製は可。ただし、出版物や電子媒体に掲載する場合は、サステナビリティ研究所の指示に従い、研究所の許可を得る必要がある。
(3) 言語	日本語
(4) 物理的特性・取り扱い注記	資料全般にかけて、物理的劣化が進んでいるため、取り扱いに注意が要される。 ○S1 原稿（テープおこし）は、簿冊の綴じが破損されているものが多い。 ○S3 音声データ（テープ）は、化学的劣化により、実物を再生することは難しい。
(5) 検索手段	金山ゼミナール資料（むつ小川原開発調査資料）目録

#### 5. 関連資料

項目	内容
(1) 原本の所在	当資料が原本である。
(2) 複製の所在	複製なし
(3) 関連記述	関連資料群なし

		編纂、部分的引用あり ○法政大学社会学部金山ゼミナール『むつ小川原開発調査の記録』2002年6月22日(内部資料) ○船橋晴俊、金山行孝、茅野恒秀『「むつ小川原開発・核燃料リサイクル施設問題」研究資料集』2013、東信堂
--	--	--

## 6. 注記

	項目	内容
(1)	備考、注記	参考文献 ○法政大学社会学部金山ゼミナール『むつ小川原開発調査の記録』2002年6月22日(内部資料) ○船橋晴俊、金山行孝、茅野恒秀『「むつ小川原開発・核燃料リサイクル施設問題」研究資料集』2013、東信堂

## 7. 整理・記述者

	項目	内容
(1)	アーキビスト ノート	法政大学サステイナビリティ研究所 RA 白種仁
(2)	管理、保存機関	法政大学サステイナビリティ研究所
(3)	記述日付	2015年11月19日